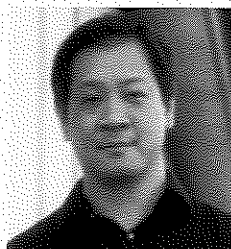
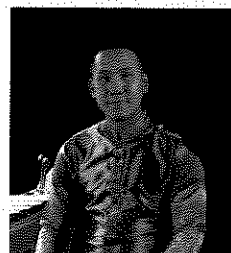


# Profile

## カンマテップ・テーラレルトラット (タイ、ラナー奏者)

1991年生まれ。チュラロンコン大学で音楽教育を、シルパコーン大学で民族音楽学を学ぶ。タイの音楽コンクールで数々の賞を受賞。

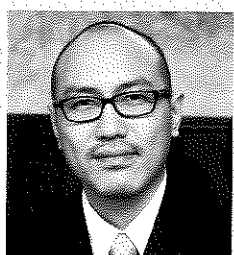
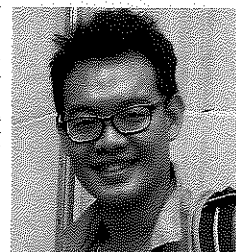


## Y・ヴァネーソン (タイ)

ヨス・ヴァネーソンは、シルパコーン大学音楽学部のクラリネット科教授である。首席クラリネット奏者として王立バンコク交響楽団、バンコク・オペラ、サヤーム・フィルハーモニック管弦楽団、サヤーム・オペラなどで演奏している。2013年に、タイ史上はじめてのクラリネットコンクールを開催する。ヴァネーソンは作曲家、編曲家としても活躍しており、交響楽やクラリネット合奏の作曲また編曲をしている。最新作「魅惑的なリード」が、高名な指揮者、ダグラス・ポストック指揮、ウルム・ウィンド・オーケストラにより、2018年11月にドイツで初演された。

## S・パンチュラアンポーン (タイ)

シラセトゥ・パンチュラアンポーンは東洋哲学および伝統と西洋の技術およびメディアを融合して、バンコクを起点に活躍している作曲家である。ナロングリット・ダマブトゥラとウィーラチャット・プレマナンダというタイ作曲家のほか、エトヴェシュ・ペーテル、チナリー・ウンそしてアーロン・キャシディにも学んだ。また2002年の入野賞、2014年武満徹作曲賞、アジア・パシフィック作曲賞、タイ国際作曲賞をそれぞれ受賞、またタイ青年芸術家賞を三年連続で受賞した。

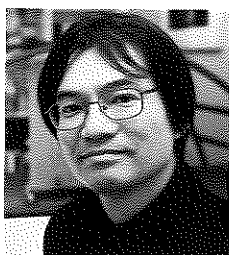


## S.P・ヴォンタラドン (タイ)

S.Pヴォンタラドンは、クラシック、ジャズ、タイの伝統音楽をブレンドし、音楽と文化の境界を越えた、最も卓越したタイ作曲家。ジャズピアニスト。近年、彼はシルパコーン大学の音楽学部教授となる。カリフォルニア大学で作曲家のチナリー・ウン教授、フランスにてヤン・ロビン、ラファエル・チェンド両氏の元で作曲を学ぶ。彼の作品は、数多くの演奏団体によりタイ国内、アジア、ヨーロッパ、オーストラリア、米国などのコンサートや音楽祭で演奏される。

## 遠藤雅夫 (日本)

東京藝大大学院修了。国内外で作品が多数演奏されている。現在、日本・ロシア音楽家協会運営委員長、日本作曲家協議会理事他。最近作：(2016) <クリスタライズ> 4 手のために、<枕詞とあ・いの詠> 尺八と三弦のための、(2017) <ヴィブラフォンのために>、<紡ぐ> 木管五重奏のための、<オイロス～東風> 尺八、箏、ヴィオラのための、(2018) <風の器> 二本の尺八のための、<ノス～南風 II> ソプラノサキソフォーン、マリンバ、チェロのための、<8枚のキルト> ピアノのために、歌曲<李承淳の二つの詩>



## 菅野由弘 (日本)

東京藝術大学大学院修了。1979年、モナコ・フランス・ピエール作曲賞、2002年、イタリア放送協会賞、2012年、創造する伝統賞受賞。作品は国立劇場委嘱の雅楽、聲明、古代楽器のための「西行-光の道」(春秋社刊)、NHK交響楽団委嘱のオーケストラ「崩壊の神話」、国立劇場新作声明「十牛図」、「ピアノの粒子」3部作、太陽の記憶「卑弥呼」、NHK大河ドラマ「炎立つ」、「フィレンツェ・ルネサンス」 「にっぽんの芸能」など。現在早稲田大学・表現工学科教授。日本作曲家協議会会長。

## 小林由直 (日本)

1984年日本マンドリン連盟主催第4回作曲コンクール第2位。作品はヨーロッパ、ロシア、台湾など世界各地で演奏され、独奏作品は日本マンドリン独奏コンクール、ヨーロッパ国際マンドリンコンクール、ルクセンブルク国際マンドリンコンクール等の課題曲としても選定されている。多くの作品がトレケル社(ドイツ・ハンブルク)より出版されている。ピアノを針谷宏弥、作曲を田中照通に師事。現在、三重大学・保健管理センター教授。医学博士。日本作曲家協議会会員。

